

# 北方領土返還要求中央アピール行動

12月1日から3日間、東京都内において返還行進を中心に要請活動や街頭啓発を実施しました。

この行動は、昭和20年12月1日、当時の安藤石典根室町長が連合軍総司令部のマッカーサー最高司令官に対して、旧ソ連に不法占拠された北方領土を米軍の占領下に置いてほしいという陳情書を起草した「北方領土返還要求運動のはじまりの日」に由来して、昨年に引き続き、5回目の実施となります。

## 「行進アピール行動」に500名が参加！

場 所：東京都中央区銀座



返還行進には、晴天のもと総勢500名が参加した。銀座で行われた出発式には、激励に駆けつけた国会議員も今までで一番多く、内閣府からは馬淵内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)及び末松副大臣、外務省からは松本副大臣が出席し、中川参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長をはじめ、高市元北方担当大臣ら15名の国会議員が駆けつけた。

主催者の長谷川根室市長(北方領土隣接地域根室管内市町連絡協議会会長)は、「北方領土の早期返還を求める国民世論の構築を図ろう！」と呼びかけ、銀座から日比谷公園までの約2.1キロを「国民世論を盛り上げよう！」とのシュプレヒコールをしながら行進した。

根室管内からは、元島民など約60名が参加したほか、在京ふるさと会の関係者、遠くは、安藤町長の出身地の鳥取県をはじめ、大阪府、奈良県、岡山県、兵庫県、山口県、徳島県、愛媛県などからの参加もあり、年末をひかえ多くの人で賑わう銀座の街を45分かけて北方領土問題を訴えた。

根室市から参加した勇留島出身の高橋孝志さん(77歳)は、「メドヴェージェフ大統領の国後島訪問への怒りを訴えながら行進した。北方領土問題は全国民の問題であり、今後も訴え続けていきたい。」と力強く語っていた。